

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200079		
法人名	医療法人 豊寿会		
事業所名	グループホーム ふれあい園	ユニット名	2号棟
所在地	都城市高崎町東霧島752-3		
自己評価作成日	平成27年6月5日	評価結果市町村受理日	平成27年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&liyosyoCd=4590200079-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成27年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、入社時に説明しケアの方針を伝えている。地域に密着した理念に変更したが、入所者の方一人ひとりのその人らしさを、家族、地域との繋がりながら支える質の高いケアを職員全員が目指している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方やご家族、地域の方から情報を頂き、可能な限り地域の催し物に参加出来る様にしている。地域の方の入所者が多い為、面会の方の顔見知りの方も多。今年、地区のいきいきサロンにも参加出来た。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区のいきいきサロンに参加した際に、管理者が認知症についての講演をし、日常の中で出来る脳リハの紹介を行っている。ケアマネ会での講義や市のセンター方式の研修で事例発表を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に行っている。市の担当職員、包括支援センター、民生委員、ご家族、第三者委員の方に出席して頂き、園の行事報告を行い、課題、問題等についてそれぞれの立場からの意見を頂いている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、園の状況について発信している。必要時には協力や情報を頂いている。管理者が認知症ケア指導者である為、職員の方との繋がりもある。入所希望の方の紹介や空き情報の連絡も取れている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングで勉強会を行っている。身体だけでなく、言葉の拘束についてもスタッフがお互いに日常の中で認識しながらケアを行っている。医療で拘束が必要な場合は、ご家族に説明した上で書類にも記載をしている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し、ミーティングの時に報告勉強会を行っている。スタッフ間のケアや入所者との関わりの中で虐待になりうる可能性についても話し、意識の向上に努めている。ご家族との関わりについても把握している。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加し、園でも勉強会を行っている。相談のあったご家族への情報の提供やご家族の事情によって必要な関係機関に繋ぎ、利用されている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、読み上げ確認をしながら説明を行っている。入所者やご家族の抱えている不安や相談にも随時対応出来る様に努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での問い合わせにも、迅速な対応を心掛けている。意見を言って頂ける信頼関係の大切さを浸透させられる様に職員に日々伝え、意見や要望は管理者に報告し、職員間で共有し反映で出来る環境に努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個別面談のみならず、ミーティングや日々の中で意見を言える環境である。意見に対しても柔軟に対応してもらっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状態や意欲に対して、賞与や給与に反映されている。職員の事情や条件に応じた勤務体制にも可能な限り対応し、働きやすい環境の整備が行われている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通しての研修計画、法人内での全体研修や園での研修やその他の研修の案内等、情報や機会を提供し助めている。職員の実績や能力、意欲に合った研修の機会も確保されている。市のセンター方式の研修には、毎年交代で参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症指導者の繋がりがりや地域のケアマネ会、介護福祉士会、ブロック会等での交流の場が増えている。リーダー研修の実習生の受け入れや専門学校の実習受け入れを行い、質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至る経緯や状況、生活歴の把握をし、ご本人のニーズや望まれる生活に出来る限り近付ける様に、信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人に対する思いやご家族の思いについて、ゆっくりと話が出来る環境の中で伺っている。その時だけでなく、電話での対応も行っている。ご家族の立場に立って、思いを受け止められる様、常に心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に頂いた情報や面接で、その方のニーズや適したサービスについての検討を行っている。入所前の担当のケアマネの方とも十分に連絡を取りながら見極めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者一人ひとりの生活歴や家族構成、性格を理解し、その方の得意な事を発揮したり、経験から学べる事を活かせる様にしている。入所者の意欲ややりがいに繋げるケアを引き出す様に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と繋がっている事、家族を感じられる事の喜びや安心感を職員が理解し、ご家族にもご協力をお願いしている。園での生活やご本人の思いを、毎月の手紙や面会時、必要時には電話でお伝えしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、知人の面会がある。ご家族との外出や外泊、お墓参り、その際に近所の方や知人と会われる方もいらっしゃる。ご家族にはご本人の希望をお伝えしているが、仕事や遠方、ご家族が高齢な方もいる為、職員と一緒に掛ける機会を設ける様にしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中での日課や食事、リハビリを一緒に行ったり、話を継いだり話題を提供し話が広がる様に努めている。協力して生活していることを感じて自ら参加しようと思ってくれる様に働きかけを心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、入所者の方の状態や必要なケアの情報を提供して、その方がその後も以前の生活が続けられる様にしている。必要時にはその都度情報の提供や相談に応じている。本院の院長からも医療情報を提供している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の個人記録にセンター方式のシートを活用し、その方の言葉をそのまま記録したり、入所者同士や職員との会話からも意向や思いの把握し職員で共有している。言葉だけでなく、表情や動作の中からもニーズを見極める様にし、実現出来る様努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報や、センター方式を活用して本人、ご家族の方からの情報の把握をしている。日々の中で得られた情報についても記録し、そのひとを知る事大切な情報として職員間で共有し、ケアに活かす様に取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者の今までの生活や現在の状態に合わせて経過して頂ける様に努めている。その方の出来る事を引き出しながら、そのことだけに固定せず、新しい能力や出来る事の発見や発揮できる場面作りや準備をしてアプローチをしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の状態や言動、気付きを記録し、ご本人の抱えているニーズ、必要とされるケアやについて、ご本人やご家族、職員と話し合っている。その方らしい個別性を重視した介護計画の作成に努めている。状態に応じて見直しも行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のシートを活用した個人記録を使用している。状況やそのままの言葉から、影響を及ぼしていると思われる事やケアのヒントを記録し、記録に携わる職員が考える力を培える様にしている。記録を基に、その人らしい生活の実現に向けた介護記録を作成し見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所後、状態が改善して自宅に戻られた方がいらっしゃる。退所後の自宅での生活や必要なサービスとの連携を図り実現出来た。状態に応じて可能な支援が提供出来る様に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方は知り合いの方も多いため、買い物や催し物への参加等で馴染みの方と繋がりがあある。地域との交流、学生の体験学習、実習、園の行事への地域の方をお誘いし、地域の中で園の理解して頂き、協力体制を築ける様に取り組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望を伺っている。医療法人なので本院がかかりつけ医になっているが、必要な医療に対しては、本院からの情報の提供や連携を図っている。異常の見られた時や状態の変化時は、迅速にムンテラが行われている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者からの訴えやいつもの違いに対して、早期対応出来る様に相談をして指示を仰いでいる。月に2回の診察時には、一人ひとりの情報を報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、園からは必要な情報やケアについての情報を提供し、環境が変わっても入所者の方のダメージがない様にしている。本院以外の入院に関しては、本院と入院している医療機関と情報の交換が行われており、面会時にも関係者から意見をもらい、早期退院に向けて準備を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際に、ご家族に意向を伺っている。状態の変化に応じて本院からムンテラや園で出来る事、出来ない事をお伝えして、意向を伺っている。重度化や終末期に起こりうる状態の対応についても勉強会を行い、職員の不安についての配慮も心掛けている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	インシデントや事故報告書を振り返り、適切な対応の勉強会や、急変時の対応についても日々の中で訓練の機会を設けたり手当の方法について行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、訓練を行っている。昼間の訓練、夜間の訓練を行い、通報や避難の手順が確実に出来る様にしている。食料や飲料水は蓄えがあり、避難場所についても周知している。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に心得て、尊厳を持って関わる様にしている。入所者の性格や望まれる過ごし方を尊重する事を基本としている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自分で選んだり決められる事の大切さを常に話し合っ、ケアのヒントや準備で自己決定の機会を作る様に働きかけている。意思表示が出来る事の喜びを感じられるケアに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	更衣の時間や入浴の時間の希望、外出の希望や食事の個別対応等、出来る限り柔軟に対応している。食事やお茶の時間には皆さんで過ごしていただく様に努めているが、居室で一人で過ごす時間も大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の長年の好みやスタイルを続けられる様にしている。選べる環境を準備したり、身嗜みを自分で整えられる声掛け行っている。ご家族と美容室に行かれる方もいらっしゃるが、希望があれば園で散髪をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	合えたり味付けをしたり、野菜の下拵えやつぎ分け、配膳、お茶入れ、米とぎ、茶碗洗い等、食事に関わる事への参加を働きかけている。食事の準備や食材から、以前の暮らしや好みの話を聞くことが出来る。状態に応じて食事形態も工夫している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については必ず記録している。水分の進まない方に対しては好まれる物やこまめに勧める等、工夫をしている。身体状態に応じた食事の調整や、食事形態の工夫や必要なケア等を話し合いながら、支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後行い、夕食後には義歯消毒を行っている。口腔ケアの状態や食事時の咀嚼の状態を観察し、必要時には歯科受診を早期に行っている。洗口液を使用し、口臭を予防している。義歯消毒の習慣がなかった方も定着して行えている。			

宮崎県都城市高崎町 グループホームふれあい園(2号棟)

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し、その方の排泄パターンを把握して、誘導や声掛けを行う事で失禁やパットの使用量を減らしている。トイレで排泄出来る事や布パンツで過ごせる事が、自信やトイレを認識出来る事に繋がる事を職員全員が認識している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートで排便の有無や量、状態について確認している。服薬だけでなく食事や飲み物、運動で便秘を予防している。自然排便の為に長年の習慣も伺い、継続して行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、両棟交互に設定しているが、勤務体制で可能な限り、その方の好まれる時間に入浴できるようにしている。外出や体調不良によって入れなかった方には、入浴日以外でも入浴をして頂ける様にしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も心身のリフレッシュになるので、夜間の睡眠に支障のない範囲で、心地良い休息が取れる様に遮光や室温の調整を行っている。寝具も定期的に洗濯や布団干しを行い、安眠できる環境整備に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はカーデックスや薬情をいつでも見られるようにしている。時間のある時には薬情に目を通し、職員の薬に対する理解を促している。誤薬の予防の為に毎食後のシートを用意し、服薬している薬も記載している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族の面会時に嗜好品を持って来て下さり、居室で楽しまれている方もいる。お手伝いや自分の事が出来る事、役割を感じられる事が生き甲斐となり、BPSDが改善されている方もいる。得意な事や出来る事を続けられる様に支援している。行事の中で、外食や花見、交流会を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある時は、勤務体制が可能であれば外出出来る様にしている。ご本人の思いや希望をご家族にも伝え協力を頂きながら、実現出来る様に支援している。ご家族の事情で、協力が難しい方もいる為課題となっている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は少ないが、持っている方は買い物に出掛けた際に、所持金からの支払いが出来ている。大きな金額に対しては、ご家族にも理解を頂き、所持金の把握もご家族の協力を頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を頂いたり贈り物がと説いた時には、電話をしたりご家族にお伝えしている。ご本人から電話の申し出があれば掛けたり、掛かってきた時には取り継いでいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、ホールには月ごとに季節に合った壁面の飾り付けをしている。採光や室温の調整を行いながらも、季節を感じて頂ける様に空調だけに頼らずに自然の風を入れられる様にしている。親しんできた音楽を耳にすることで、ロズさんたり会話が増えている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プレイルームやホールで、仲の良い方と話をしたりテレビを見たり、一緒に洗濯物を畳んだりされている。廊下の長椅子に座って会話をしたり、居室を覗いて声を掛けられたり、それぞれの方がその時の気分で過ごされている。ソファや食卓の席はほぼ入所者の方の特定の場所がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ご本人の馴染みの品物やご家族との繋がりを感じられる物を持って来て頂く様をお願いし、少しずつ浸透してきているが、まだ新しく購入されて物が多い。入所後も、少しずつでも増やしていける様をお願いしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名札が掛けてあり、居室が分かる様にしている。転倒のリスクが高い方の居室はクッション性のある絨毯を敷き、骨折のリスクに対しての予防をし、安全に居室で過ごせる環境の整備を行っている。			